

選択領域 8月9日(水) その1

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭、小:小学校教諭、中:中学校教諭、高:高等学校教諭、特:特別支援学校教諭、養:全校園種の養護教諭

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
E-1	心と身体の健康 II	6時間	教諭・養護教諭	幼・小・中・高・特・養	150名

テーマ : 子どもの現代的健康課題の現状と支援のあり方

講師 : 大平 雅子

近年、子どもを取り巻く環境は刻一刻と変化しており、それに付随して子どもの健康課題も徐々に変化しています。本講習では、健康に関する現代的課題について、フィジカルヘルスとメンタルヘルスの両側面から現状と支援のあり方を考えていきます。科学的根拠のあるデータや個別の事例等から、現場において実践可能な健康問題解決の方策を検討していきます。

テーマ : 学校教員のための精神医学

講師 : 久保田 泰考

教育現場で問題になることの多い精神障害・疾患についての基礎的な知識を習得し、危機介入や治療について理解を深めることを目標とします。具体的には、うつ、双極性障害、自閉スペクトラム、統合失調症などを取り上げ、こころの問題を抱える生徒のために現場において可能な支援・援助について検討していきます。

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
E-2	当たり前なのが当たり前でない世界	6時間	教諭	幼・小・中・高・特	100名

テーマ : 言語と文化

講師 : 于 一 楽

自然と日本語を身につけ、日本文化の中で生活してきた我々にとって、当たり前のように認識していることが、必ずしも、異なる言語と文化を共有している人々にとっても当てはまるわけではありません。むしろ、当てはまらない場合が多いでしょう。異文化に接するとき、それらの差異が原因で、思わぬ誤解を生じてしまうことが多々あります。この授業では、日本語、中国語、英語、韓国語などの言語と文化を観察することで、異文化間の差異についてみなさんと一緒に考えていきます。プレゼントをもらったのに、「ありがとう」と言わない。食事に誘った相手が行くと返事したのに、当日来なくてその後謝りもしない。トンボも飛行機もパイロットも同じ単語、人に褒められて、「もっと言って、もっと褒めて」と言う。なぜ？

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
E-3	中高教員のための理系講座 ～物理領域とアクティブ・ラーニング～	6時間	教諭	中・高	30名

テーマ : 電磁気と原子の世界

講師 : 恒川 雅典

小中学校では電磁石について、簡易な電磁石としてコイルモーターの作製などが実践され、電流と磁界の関係を学びます。また永久磁石を利用してクリップや鉄釘を磁化することも行われます。本講義では、これらを高校物理以降で学ぶ原子の世界との関係を軸として体系的に理解できるような内容を扱います。電磁波の一種である紫外線やエックス線を利用した実験やミクロスコピックな先端研究を紹介し、小中高における理科の内容と先端研究とのつながりを解説します。

テーマ : 理科アクティブ・ラーニング:科学の考え方・見方

講師 : 加納 圭

次期学習指導要領においては、知識・技能だけでなく資質・能力(たとえば科学の考え方・見方)などをも身につけるために、児童・生徒の能動的な学修を促すアクティブラーニングを求めている。アクティブラーニングは「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」とされる。本講座では、NHK理科教育番組「考えるカラス～科学の考え方～」や「カガクノミカタ」を参考に、科学の考え方や見方が身につくアクティブラーニング型授業の開発実施方法を取り扱います。

選択領域 8月9日(水) その2

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
E-4	子どもの造形行為を「読みとる」	6時間	教諭	幼・小	40名
<p>テーマ：子ども(幼児期～学童期)の造形行為を「読み取る」方法</p> <p style="text-align: right;">講師：村田 透</p> <p>教師が子どもの造形行為(作品)を「共感」「指導・支援」「評価」する上で、教師による子どもの行為の「読み取り」は欠かすことはできません。そのためには子どもの「造形表現の発達」や「表現内容の特徴」などを理解することが必要です。また教師による子どもの造形行為の場への「参入の仕方」や「記録」が大切となります。本講義では、題材(絵や造形遊びなど)を体験すると共に、子どもの事例と比較しながら、子どもの造形活動を「読み取る」方法について学びます。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
E-5	学校におけるプログラミング教育	6時間	教諭	小・中・高	30名
<p>テーマ：学校におけるプログラミング教育</p> <p style="text-align: right;">講師：松原 伸一</p> <p>学校におけるプログラミング教育について、歴史的な視点、社会的な視点、そして、教育的な視点により解説し、プログラミングとその教育にかかわる基礎的な事項について考究する。</p> <p>まず、歴史的視点では、情報教育の歴史について解説し、プログラミング教育の位置づけについて述べる。次に、社会的視点では、社会の情報化や将来像について分析する。さらに、教育的視点では、新しい社会(時代)に対応するため、プログラミング教育の在り方について解説し、プログラミングの基礎的知識とその教材化について考究する。</p>					
<p>テーマ：小中学生向けプログラミングツール</p> <p style="text-align: right;">講師：右田 正夫</p> <p>前半では、2020年度の小学校プログラミング教育導入に向け、児童にも親しみやすいプログラミング環境として期待されるScratchを紹介し、Scratchでは、命令を表すブロックを配置しながら、アニメーションやグラフィックスのプログラムを作成します。</p> <p>後半では、Scratchからステップアップする際に学習しやすい言語としてLOGOを紹介し、本講座では、必要最小限の文法を学習し、簡単なグラフィックスのプログラムを作成します。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
E-6	小学校社会科のデザイン	6時間	教諭	小	30名
<p>テーマ：社会的な見方・考え方を育てる初等社会科教育論</p> <p style="text-align: right;">講師：岸本 実</p> <p>21世紀社会を生きぬくために必要な公民としての資質・能力の基礎を育成するために、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を展開する小学校社会科をどのようにデザインするかについて考察する。</p> <p>①社会的な事象等についての知識・技能、②社会的な事象等についての思考・判断・表現、③社会的な事象に主体的に関わろうとする態度という3つの柱に沿った目標をどう考えるか。現代的な課題をふまえて教育内容をどのように見直すか。特別支援やICT活用を視野に入れつつ主体的・対話的で深い学びをどのように実現するか。学習の成果を通して目標の達成についてどのような規準・基準と方法で評価するのか。以上の問いを探究していく。</p>					
<p>テーマ：「地図帳」の効果的な活用を考える</p> <p style="text-align: right;">講師：安藤 哲郎</p> <p>地図帳の活用は「一層重視」されるようになったが、「指導要領解説」を見ても、「名称と位置を確かめる」「産地を調べる」「基礎的資料として効果的に活用する」という方針が示されているのみで、こういった使い方をすればよいのか、あまり明確でない。しかし、小学校の時期に「地図帳への親しみ」を持ってもらい、「問題解決のための教材として効果的に活用する知識や能力を育てる」ことは、その後続く社会科の学習においても、また「生きる力」の養成の面でも重要である。そこで、白地図の利用や地図帳の積極的な利用に資する教材の開発などと合わせて、地図帳の効果的な活用について一緒に考えていきたい。</p>					

選択領域 8月9日(水) その3

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
E-7	体験的環境学習への招待	6時間	教諭	小・中・高	40名
<p>テーマ：水環境の特徴と体験的環境学習の実際</p> <p style="text-align: right;">講師：石川 俊之</p> <p>身近な自然を活用した環境学習を考えるうえで、水環境は良い教材になりうる。講義では、まず水環境の特徴を理解し、教材として注意すべき点を考えていく。滋賀県の特徴であるフローティングスクールうみのこでの学習や琵琶湖博物館での学習を例に、体験的学習における工夫を考える。</p>					
<p>テーマ：持続可能な社会に向けた環境教育の理念と方法</p> <p style="text-align: right;">講師：市川 智史</p> <p>今日の環境教育は持続可能な社会の構築をめざすものとされている。本講座では、環境教育の目的・目標、現状、持続可能な社会の視点などの理念とともに、参加体験型の環境教育プログラムの手法に関する講義を行う。</p>					

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者	定員
E-8	保育内容及び方法	6時間	教諭	幼	80名
<p>テーマ：自然環境を生かした保育内容</p> <p style="text-align: right;">講師：前川 頼子(滋賀短期大学)</p> <p>自然は、いつも子どもたちのそばにあり、子どもたちが育っていくのと同様に変化しています。子どもたちと一緒に自然の変化を積極的に楽しむことで、小さな季節の変化に気づく感性が育っていきます。本講義は、自然とともに生きる豊かさに気づき、自然との具体的な環境との出会いを通して、子どもが「できた!」「やった!」「楽しい!」という達成感が持てる保育を展開する力の育成を目指します。</p>					
<p>テーマ：幼児理解に基づく保育者の援助</p> <p style="text-align: right;">講師：李 霞(滋賀短期大学)</p> <p>保育実践の出発点は、保育者の幼児理解にある。保育活動において、幼児理解を起点に、保育を計画・実践・省察することによって、新たな幼児理解を構成することが保育の質の向上につながる。こうした認識に基づき本講義では、保育者が幼児を理解することの意味合い、幼児を理解するときの手立てやプロセス、保育実践が幼児理解から始まり、幼児理解に戻ることの重要性とともに、幼児理解に基づいて保育を計画する方法、保育の計画に即した環境構成について解説する。</p>					